

福島県南会津郡只見町は、福島県の北西部に位置している。只見町は特に雪が多く、3m以上も積雪することがある。生業は、農業を中心としているが、只見町の大半が山林であるために、これを利用する伐採業も盛んに行われていた。冬季は、雪におおわれ農業を行うことができないため、雪を利用した木材搬出、関東稼ぎと呼ばれる出稼ぎによる屋根葺等が行われ、春～秋までは農業、冬季には別の職業という具合に兼業を行う家が多く、それらの職に関する民具が多く確認されている。

こうした只見町の豊富な民具であるが、使用者が整理作業を行うという独特な整理スタイルを確立し、一般的に“只見町方式”という呼び方で、これから民具整理を行う自治体の注目を浴びてきた。只見町では、使用者＝調査者になることで、細かい民具の情報までがカードに記入され、今まで、研究者が着目してこなかった民具の情報が盛り込まれている。

“只見町方式”によって整理された民具は4,417点にのぼり、1992年に『図説 会津只見の民具』という報告書にまとめられている。それ以降も継続して整理作業が進められ、現在では8,000点以上の民具が収蔵・整理されている。そして、2005年には、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」という形で、2,333点の民具が国指定重要有形民俗文化財に指定された。「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」では、10分類の民具が選ばれている。

神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」の地域統合情報発信班では、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」を中心に、只見町の豊富な資料を体系化し、わかりやすく総合的に提示できるようなインターネット上のシステムを開発することにした。1960年代にジョールジュ＝アンリ・リヴィエール(G. H. Rivière)によって提唱されたエコミュージアムの概念にならってこのネットのエコミュージアムは民具を通して自然と人間の相互関係を紹介している。

只見町インターネット・エコミュージアムは「只見町の風景」「自然と暮らし」「只見町の屋根葺職人」「只見町所蔵民具検索」の四つの部門で構成されている。「只見町の風景」では、只見町の小林地区と梁取地区の俯瞰画像から只見町の民俗文化財をクローズアップし、景観とともに映像や解説を見ることができる。「自然と暮らし」では、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」の情報を利用し、「山」「川」「里」といった只見町をめぐる環境と「人」を表した概念図からそれぞれに関わる生業を示し、各生業の作業工程を提示している。「只見町の屋根葺職人」は、博物館でいうところの特別展のようなもので、「自然と暮らし」において扱った生業の中から屋根葺職人を選び、さらに詳しい解説を行っている。「只見町所蔵民具検索」は、「会津只見の生産用具と仕事着コレクション」として指定された2,333点の民具を検索することができる。また、「自然と暮らし」「只見町の屋根葺職人」と連動しており、文字で示された民具を選択することでそれぞれの民具カードを閲覧することができるようになっている。

只見町インターネット・エコミュージアムのサイトURL: <http://www.himoji.jp/himoji/tadami-item/index.html>